

書 名 : これだけマスター 2 級建築施工管理技士
 発 行 : 2022 年 5 月 23 日 第 1 版第 1 刷発行
 ISBN : 978-4-274-22867-4

◆ 訂正内容 (2023 年 4 月 17 日)

発生 刷数	頁数 位置	正誤内容		備考
		誤	正	
1 刷	P8 建築と換気	[必要換気量] 室内の汚染空気の濃度を許容濃度以下に保つために必要な最小の換気量。部屋の大きさや在室人数により必要換気量は異なるが、一般に成人 1 人当たりの必要換気量は、30 m ² /h 程度とされる。	[必要換気量] 室内の汚染空気の濃度を許容濃度以下に保つために必要な最小の換気量。部屋の大きさや在室人数により必要換気量は異なるが、一般に成人 1 人当たりの必要換気量は、30 m ³ /h 程度とされる。	
〃	P32 単純梁の応力計算	[反力の計算] (中略) 点 B に関するモーメントの釣合いより $\sum M_B = V_A \cdot 4l - 2P \cdot 3l + P \cdot l = 0$	[反力の計算] (中略) 点 B を支点としたとき、点 A に関するモーメントの釣合いより $\sum M_A = V_A \cdot 4l - 2P \cdot 3l + P \cdot l = 0$	
〃	P88 埋戻し	(前略) 土質による沈みしろを見込んで余盛りを行い、水締めは砂質土より粘性土を多くする。余盛りは十分な水締めを行った場合、砂質土で 5～10 cm、粘性土で 10～ 15 cm 程度とする。	(前略) 土質による沈みしろを見込んで余盛りを行う。余盛りは、砂を用い十分な水締めを行う場合は 50～100mm、粘性土を用い十分な締固めを行う場合は 100～150mm 程度とする。	
〃	P307 問 2 (4) 解説・解答	解説 3 月末の実績出来高累計 = 1 月出来高(920) + 2 月出来高 (1480) + 3 月出来高 (1620) = 4020〔万円〕 解答 4 4020 万円	解説 3 月末の実績出来高累計 = 1 月出来高(920) + 2 月出来高 (1480) + 3 月出来高 (1710) = 4110〔万円〕 解答 4 4110 万円	

※ 青字は書籍内の文字色にもとづく

◆ 訂正内容（2022 年 12 月 21 日）

下記の内容は、いずれも「建設業法施行令の一部を改正する政令（令和 4 年 11 月 18 日政令第 353 号，令和 5 年 1 月 1 日施行）」により、法令の変更に対応したものです。

令和 4 年（2022 年）12 月 31 日までは書籍 1 刷に記載の内容を正としていただき、令和 5 年（2023 年）1 月 1 日より、下記内容で読み替えいただきますようお願いいたします。

発生 刷数	頁数 位置	正誤内容		備考
		2022 年 12 月 31 日まで	2023 年 1 月 1 日より	
1 刷	P.262 表内 工事の下請け代金に よる種類＞特定建設 業の「内容」	発注者から直接請け負った（元請） 1 件の工事につき、下請代金の総額 が 4000 万円以上となる下請契約を 締結して、下請負人に施工させる場 合（建築工事業は 6000 万円）	発注者から直接請け負った（元請） 1 件の工事につき、下請代金の総額 が 4500 万円以上となる下請契約を 締結して、下請負人に施工させる場 合（建築工事業は 7000 万円）	
〃	P.263 表内 監理技術者の 「内容」	（前略）元請となる特定建設業者が、 その工事の下請契約の総額が 4000 万円以上となる場合に工事現場に置 く（建築工事業は 6000 万円以上）。	（前略）元請となる特定建設業者が、 その工事の下請契約の総額が 4500 万円以上となる場合に工事現場に置 く（建築工事業は 7000 万円以上）。	
〃	P.263 表内 主任技術者 および監理技術者の 「現場ごとに専任」	（前略）請求代金が 3500 万円以上 となる場合（建築一式工事は 7000 万 円以上）。	（前略）請求代金が 4000 万円以上 となる場合（建築一式工事は 8000 万 円以上）。	

※ 青字は書籍内の文字色にもとづく